

市内で働く良さ知って ハローワーク 市外高校の訪問強化 玉野
高 OB講師に初ガイダンス 市長も積極PR

高校生に市内勤務を働き掛ける取り組みが活発化している。玉野
公共職業安定所などは市内だけでなく、市外高校訪問も重視し、黒
田晋市長が「トップセールス」。玉野高はOBを招いた職業ガイダン
スを初めて行い、地元での働きがい
をアピールしてもらった。



OBから市内勤務の良さを聴く玉野高1年生

玉野高の職業ガイダンスはこれまで
大学関係者らを招いて実施してきたが、今回初めて「生徒たちに身近
な話を」と講師を一般社会人にシフトした。依頼に13人が応じ、うち
12人がOBでほとんどが市内勤務。
7月12日、ボランティア講演した。

メーカー従業員、理学療法士、看護師、公務員、化粧品販売店経営
などさまざまな職業のOBが、各教室で50分ずつ2回にわたって講演。
1年生161人がそれぞれ関心のある職業二つを選んで聴いた。

OBらは地元で働くことの意義や誇りを失敗談も交えて熱っぽく
語り、生徒たちはリアリティーのある話をしっかり受け止めていた。

福本まゆみ校長は「1年生の時から職業観を養い、古里の良さを
実感してもらいたい。進学でいったん玉野を離れてもまた戻ってき
てほしい」と願っている。(下谷博志)

平成二八年八月九日付 山陽新聞〔記事・写真は一部割愛〕